



2つの戦争に翻弄されたカロラの半生

この夏クロアチア人の古い友人カロラを訪ねて、アドリア海に面する街まで行ってきました。彼女は
この4月に長い介護の末、87歳の姉を亡くしました。彼女には一人娘が日本にいますが、子供が3人
いて、クロアチアに行くことが出来ません。私が代わりに行き、LINEでビデオ会話を娘と3人の孫とさ



せることにしました。それはもうお互いに変な喜びようでした。彼女は1番下の孫には1度も会ったことがありませんでした。

今回娘も知らない彼女の人生の歴史を聞くことが出来ました。1939年にユーゴスラビアに生まれましたが、第二次世界大戦の戦禍の中、彼女の母は6人の子供の内、小さい4人を連れて、カイロの難民キャンプに逃げ延びました。彼女が4歳の時です。キャンプの中のテントで5人

は1945年の終戦を知らされるまで、過ごしました。トイレは共同、水は配給をもらい、体を拭くか、近くの川まで水浴びに行きました。

戦争が終わり、ユーゴスラビアに帰国しましたが、まだ10代の二人の兄は殺されていました。母の実家は裕福でしたが、チトーにすべて取られて、何もありませんでした。父の実家で2〜3年過ごしましたが、共産主義者に家を取られてしまいました。そこでスプリットの石造りの家の、屋根裏部屋のようなところで、2家族といつも咳をしている老人と一緒に住みました。国から与えられた部屋でした。トイレもなく、汚物を夜に上から外に捨てました。国が嫌で12歳から17歳まで3回友人と3人で脱出を試みましたが、3回とも失敗しました。22歳とき、ドイツから旅行に



来ていた17歳の青年とその両親の助けで、偽装結婚を装い、パスポートを取ることが出来、ドイツに行きました。その時は全くドイツ語が話せませんでした。青年の両親の家に1年住み、少しドイツ語が出来るようになってから色々な仕事をしました。最初は掃除婦、その次は3Mという会社の梱包、その次は自動車工場では部品の組み立て、その容貌から最後にモデルになりました。コンパニオンと呼ばれたパーティーで見染られ、日本人商社マンと結婚をしました。15年暮らしたドイツを後にし、日本で20年以上暮らすことになりました。

ところが、夫は47歳で癌で他界。続いて、クロアチアでユーゴスラビアからの独立戦争が始まりました。毎日泣き暮らす日が続きましたが、私と一緒に、クロアチアの子供病院に物資とお金を送るためのチャリティーホームパーティーを何回も開きました。20年前にクロアチアに帰国し、姉の看病をしながら、平和に暮らしていました。ただ、残念なことは娘や孫に18年間も会っていないことです。この先もいつ会えるかわかりませんが、元気でいてくれれば、必ず会えると信じています。

あぜりあ School 校長 勝山ひとみ

